

## 7 リハビリ患者に対する「看護必要度評価」の矛盾点

～看護時間測定結果から見えたこと～

病院看護部 吉田尚子、佐藤龍子、宇津城歩美、粕谷陽子  
井草良子、堤美穂、田村玉美、横田美恵子

### 【はじめに】

従来、看護に関連する診療報酬は、患者数に対する看護師配置で評価されてきたが、平成9年より患者の看護の必要性に応じた看護師配置に対し、診療報酬をつける仕組みの検討が始まった。ICU及びハイケアユニットの患者に対し提供しているケア内容の分析から、処置に関する項目（A項目）と患者の状況に関する項目（B項目）を決め、看護の必要量を推計する客観的な指標、即ち看護必要度が開発され、平成15年からは診療報酬の算定要件に導入された。その後、患者の状態を急性期から回復期まで一貫した評価票に基づいて評価する地域連携パスの取り組みが始まり、平成20年からは回復期リハ病棟にもB項目が『日常生活機能評価票』として導入された。

国リハでは、病院の方針として地域連携室及び回復期リハ病棟立ち上げが掲げられたことから、平成21年12月より看護必要度評価（A・B項目）を毎日実施している。しかし、看護必要度とは「患者に提供されるべき看護の量」と定義されているものの、この1年間の看護必要度評価の実施を通し、当院が対象とする患者の身体的な状態や認知の問題などをカバーしていないため、リハ看護が適切に評価されないという声がある。

### 【目的】

国リハが対象とする患者に提供しているケアを調査し、結果の分析から看護の現状と『日常生活機能評価票』との矛盾点について考察する。

### 【調査対象及びデータ収集方法】

対象患者：42名（頸髄損傷者：32名、脳血管疾患：10名）

方法：タイムスタディ調査（実施にあたっては、本人・家族に目的と方法を説明し同意を得た。

平日の1日を選び、計測者が患者の傍らにいて、他の看護師・看護職種が患者と関わった時間を1分単位に24時間記録する）を行い、提供しているケア結果を分析する

### 【結果】

1. 脳血管障害患者では、どの項目にも当てはまらない排泄・入浴に関する時間が多い。
2. 高次脳機能障害患者では、日常生活あらゆる場面での見守り、説明、危険防止等を要している。診療・療養上の指示が通じない「はい」の場合でも1点で、重要度の比重は低い。
3. 頸髄損傷患者では、1.と同様に、排泄・清潔に関する時間が占める時間が多い。

### 【まとめ】

今回の調査結果より、日常生活機能評価票に身体的な機能や認知に問題のある患者を評価する具体的な項目が無いために、国リハが対象とする患者の状態を適切に評価することは出来ないと考える。外部にも「日常生活機能評価票が何に関する指標か、リハビリテーション成果を表すのか検討が必要である」という意見は多い。地域連携が急性期、回復期、維持期という一連の流れの中で行うものであれば、それぞれの時期に患者の状態を適切に評価できる項目が必要であろう。

重症度・看護必要度に係る評価票（HCU用）

処置に関する項目（A項目）	配点	
	0点	1点
1 創傷処置	なし	あり
2 蘇生術の施行	なし	あり
3 血圧測定	0～4回	5回～
4 時間尿測定	なし	あり
5 呼吸ケア	なし	あり
6 点滴ライン同時3本以上	なし	あり
7 心電図モニター	なし	あり
8 輸液ポンプの使用	なし	あり
9 動脈ライン	なし	あり
10 シリンジポンプの使用	なし	あり
11 中心静脈ライン	なし	あり
12 人工呼吸器の装着	なし	あり
13 輸血や血液製剤の使用	なし	あり
14 肺動脈圧測定	なし	あり
15 特殊な治療等 CHDF, IABP等	なし	あり

重症度・看護必要度評価票（HCU）

●モニタリング及び処置等（全15項目）

患者の状況等（全13項目）

\*HCU=重症患者病棟 (High Care Unit)

日常生活機能評価票

（回復期リハ病棟、地域連携診療に係る

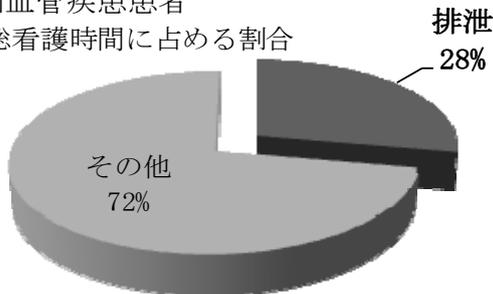
計画管理病院及び連携病院）

●患者の状況（13項目）

患者の状況に関する項目（B項目）	配点		
	0点	1点	2点
1 床上安静の指示	なし	あり	—
2 どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	できる	できない	—
3 寝返り	できる	何かし～	できない
4 起き上がり	できる	できない	—
5 座位保持	できる	支えが～	—
6 移乗	できる	見守り～	できない
7 移動方法（主要なもの一つ）	介助なし	要介助	—
8 口腔清潔	できる	できない	—
9 食事摂取	介助なし	一部介助	全介助
10 衣服の着脱	介助なし	一部介助	全介助
11 他者への意志の伝達	介助なし	一部介助	できない
12 診療・療養上の指示が通じる	はい	いいえ	—
13 危険行動	ない	ある	—

脳血管疾患患者

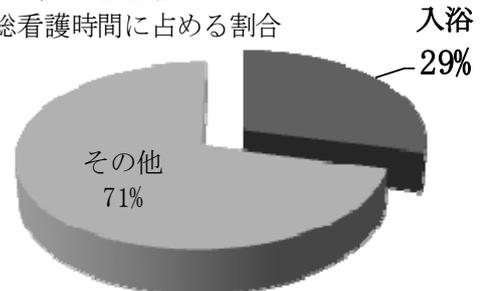
総看護時間に占める割合



排泄があった患者 n=4

脳血管疾患患者

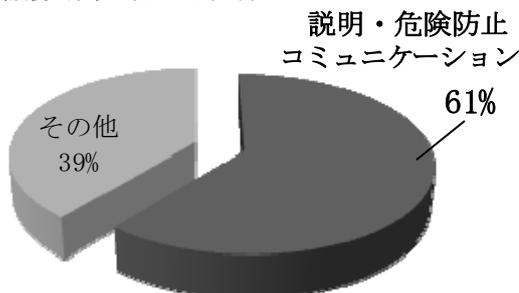
総看護時間に占める割合



排泄があった患者 n=4

高次脳機能障害患者

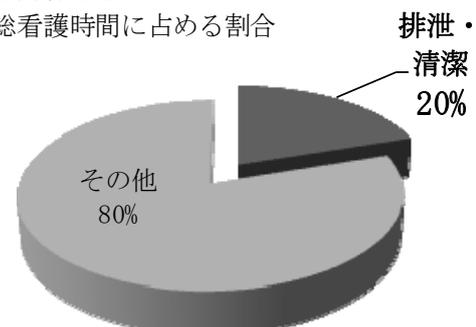
総看護時間に占める割合



n=1

頸髄損傷患者

総看護時間に占める割合



n=32